

第 149 回

日本輸血・細胞治療学会関東甲信越支部例会

テーマ：輸血の適正使用

会 期：令和2年2月29日（土）

時 間：10時～18時00分

会 場：東京大学 伊藤国際学術研究センター

例会長：岡崎 仁

東京大学医学部附属病院 輸血部

ご挨拶

東京大学伊藤国際学術研究センターにて、第 149 回日本輸血・細胞治療学会関東甲信越支部例会を開催することとなりました。東京大学医学部附属病院輸血部は全国で最も早く 1949 年（昭和 24 年）に院内措置として発足し、1966 年（昭和 41 年）に予算措置がなされ、正式に認可されました。その後、1997 年（平成 9 年）に、東京大学医学部の大学院大学発足に際して、内科学専攻病態診断医学講座輸血医学となり今日に至ります。当院は年間約 8 万 5 千単位の輸血を行い、自己血の使用も推進しており輸血を使用する手術の約半数は自己血のみに行っている状況です。また、心臓、肺、肝臓をはじめとする移植も近年増加しています。輸血廃棄額もここ数年でかなり改善してきており、適正な輸血に近づきつつあると思われまます。

今回の例会のテーマは「輸血の適正使用」とさせていただきました。限りある資源であり、国民の皆様の献血で成り立っている輸血医療を今後も持続させるために、我々が今もう一度原点に返って考え直してみる機会とさせていただければと思っております。様々な視点からの適正使用についてのご講演を通して、適正使用についてご討論いただければと思います。また、非侵襲的手術の普及により輸血量は減少傾向にはありますが、いまだに大量出血症例に対する大量輸血を必要とする症例は少なからずあり、エビデンスに基づくガイドラインも整備されたことからそれに対応する輸血部業務の実際についても勉強させていただく機会になればと思っております。

本日の例会にご参加いただいた皆様の日々の業務にお役に立つことを心より願っております。

令和 2 年 2 月吉日

第149回日本輸血・細胞治療学会 関東甲信越支部例会 例会長
東京大学医学部附属病院輸血部

岡崎 仁

プログラム

午前の部（10：00 ～ 11：40）多目的スペース

I. 看護師教育セミナー

座長：田中朝志（東京医科大学八王子医療センター臨床検査医学科）

横濱章彦（群馬大学医学部附属病院輸血部）

講演 1 演題名「輸血有害事象への対応」

演者：横手恵子（群馬大学医学部附属病院輸血部）

講演 2 演題名「看護師への輸血の教育活動」

演者：木村秀美（埼玉協同病院）

講演 3：演題名「自己血採血における看護師の役割」

演者：池田敏之（東京大学医学部附属病院輸血部）

II. インフォメーション

「日赤の学会認定・アフェレーシスナースによる医療機関への技術支援について」

日赤血液事業本部 柴田玲子

…… 休憩 11：40 ～ 13：00 ……

午後の部（13：00 ～ 18：00）伊藤謝恩ホール

I. 開会挨拶

（13：00 ～ 13：05）

支部例会長 岡崎 仁

II. シンポジウム テーマ：「輸血の適正使用」

（13：05 ～ 14：45）

座長：岡崎 仁（東京大学医学部附属病院輸血部）

野崎昭人（横浜市立大学附属市民総合医療センター輸血部）

演者 1：牧野茂義（虎の門病院輸血部）

「アルブミンの適正使用」

演者 2：長谷川潔 他（東京大学医学部附属病院肝胆膵外科/人工臓器・移植外科）

「肝移植における輸血およびアルブミン製剤使用の現状」

演者 3：川元俊二 他（湘南厚木病院無輸血治療外科）

「Patient Blood Management(PBM)」

演者 4：藤原慎一郎（自治医科大学附属病院血液科）

「血小板の適正使用」

Ⅲ. 一般口演 1

(14 : 50 ~ 15 : 45)

座長：奥山美樹（東京都立駒込病院輸血・細胞治療科）
名倉 豊（東京大学医学部附属病院輸血部）

1. 新生児における輸血後の高 NH₃血症のリスク調査
古谷智子 他（東京都立墨東病院）
2. A抗原減弱によりオモテ試験が部分凝集となった骨髄性腫瘍の2例
工藤沙也果 他（獨協医科大学埼玉医療センター）
3. コンピュータークロスマッチ導入前後の業務効率調査
関口千織 他（東海大学医学部附属病院）
4. ABO 主不適合臍帯血移植後の血液型検査におけるオモテ試験部分凝集に関する解析
水村真也 他（虎の門病院）
5. 小笠原のブラッドローテーションシステムで当院に供給された赤血球製剤の使用状況について
中島一樹 他（東京大学医学部附属病院）
6. 血液搬送装置 ATR-705-RC05（Active Transfusion Refrigerator ; ATR）を用いた院内廃棄血製の削減への取り組み
舘野友紀 他（東邦大学医療センター大森病院）

一般口演 2

(15 : 45 ~ 16 : 40)

座長：池田敏之（東京大学医学部附属病院輸血部）
中村潤子（東京大学医学部附属病院輸血部）

7. ヘモビジランス向上を目指した副作用監視体制の構築～記録システム改善による副作用観察の標準化～
山中浩代 他（山梨大学医学部附属病院）
8. 当院における輸血チームの取り組み：FFP 融解業務の改革
橋口 友恵 他（JR 東京総合病院）
9. 高頻度抗原 Di^bに対する抗体を保有している患者の輸血準備に苦慮した一例
清水翔太 他（慶應義塾大学病院）
10. 不規則抗体複数保有患者における大手術時に備えた血液製剤管理の一例
藤村亮介 他（慶應義塾大学病院）
11. 初療室の緊急輸血準備における看護教育の取り組み
山上佐織 他（都立墨東病院）
12. 輸血・細胞療法に係る臨床検査技師業務の一元化の試み
小嶋俊介 他（信州大学医学部附属病院）

…… 休憩 16 : 40 ~ 17 : 00 ……

IV. 教育講演 「大量出血への対応」 (17:00 ~ 17:50)

座長：宮田茂樹（日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所）

奥田 誠（東邦大学医療センター大森病院輸血部）

演者 1：藤田 浩（東京都立墨東病院輸血科）

「輸血部医師の立場から」

演者 2：杉本達哉（東海大学医学部附属病院輸血室）

「輸血部技師の立場から」

V. 講評・優秀演題賞発表・閉会挨拶 (17:50 ~ 18:00)

支部長 岡崎 仁

会場アクセス・会場案内図

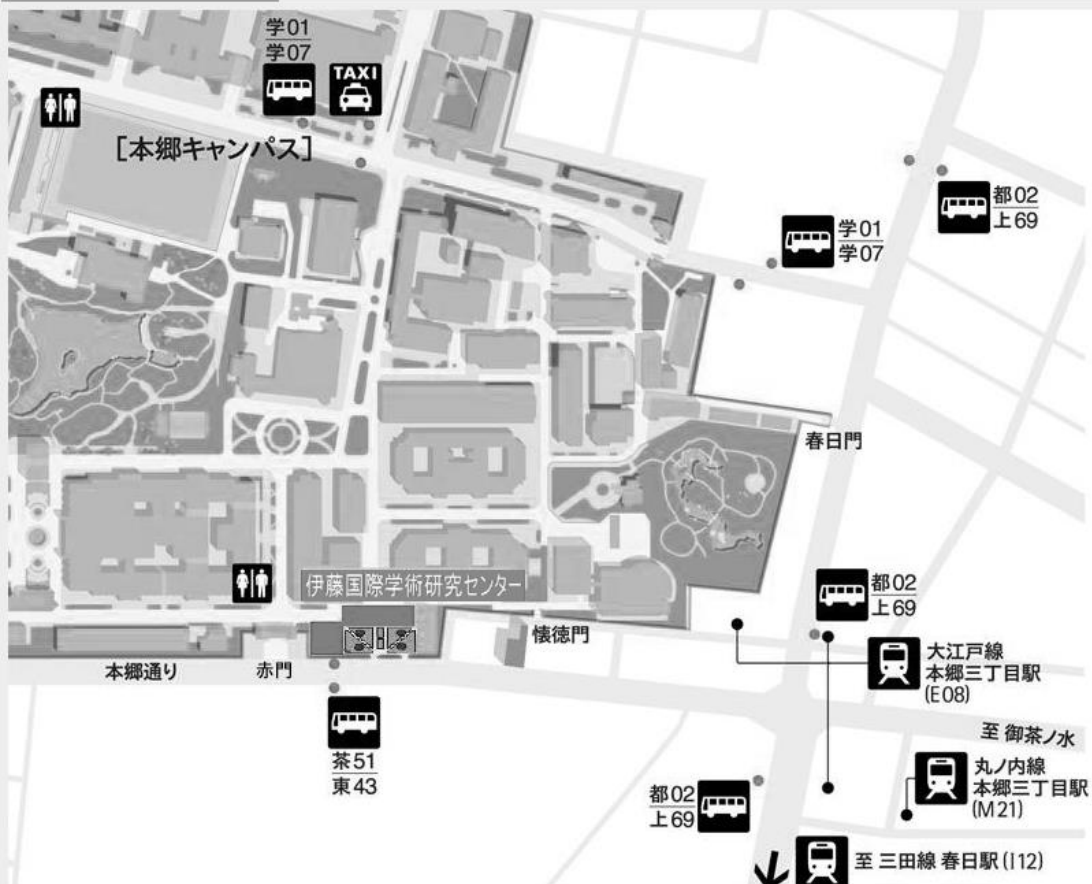
アクセス詳細はホームページをご覧ください。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/iirc/ja/access.html>

電車・バスでのアクセス

最寄り駅		所要時間
本郷三丁目駅（地下鉄丸の内線）		徒歩8分
本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線）		徒歩6分
湯島駅または根津駅（地下鉄千代田線）		徒歩15分
御茶ノ水駅 (JR中央線、総武線)	地下鉄利用	丸の内線(池袋行) — 本郷三丁目駅下車
	地下鉄利用	千代田線(取手方面行) — 湯島駅又は根津駅下車
	都バス利用	茶51駒込駅南口又は東43荒川土手操車所前行 ↓ 東大(赤門前バス停)下車
	学バス利用	学07東大構内行 — 東大(龍岡門、病院前、構内バス停)下車
御徒町駅 (JR山手線等)	都バス利用	都02大塚駅前又は上69小滝橋車庫前行 — 本郷三丁目駅下車
上野駅 (JR山手線等)	学バス利用	学01東大構内行 — 東大(龍岡門、病院前、構内バス停)下車

最寄り駅およびバス停から伊藤国際学術研究センターまでの地図



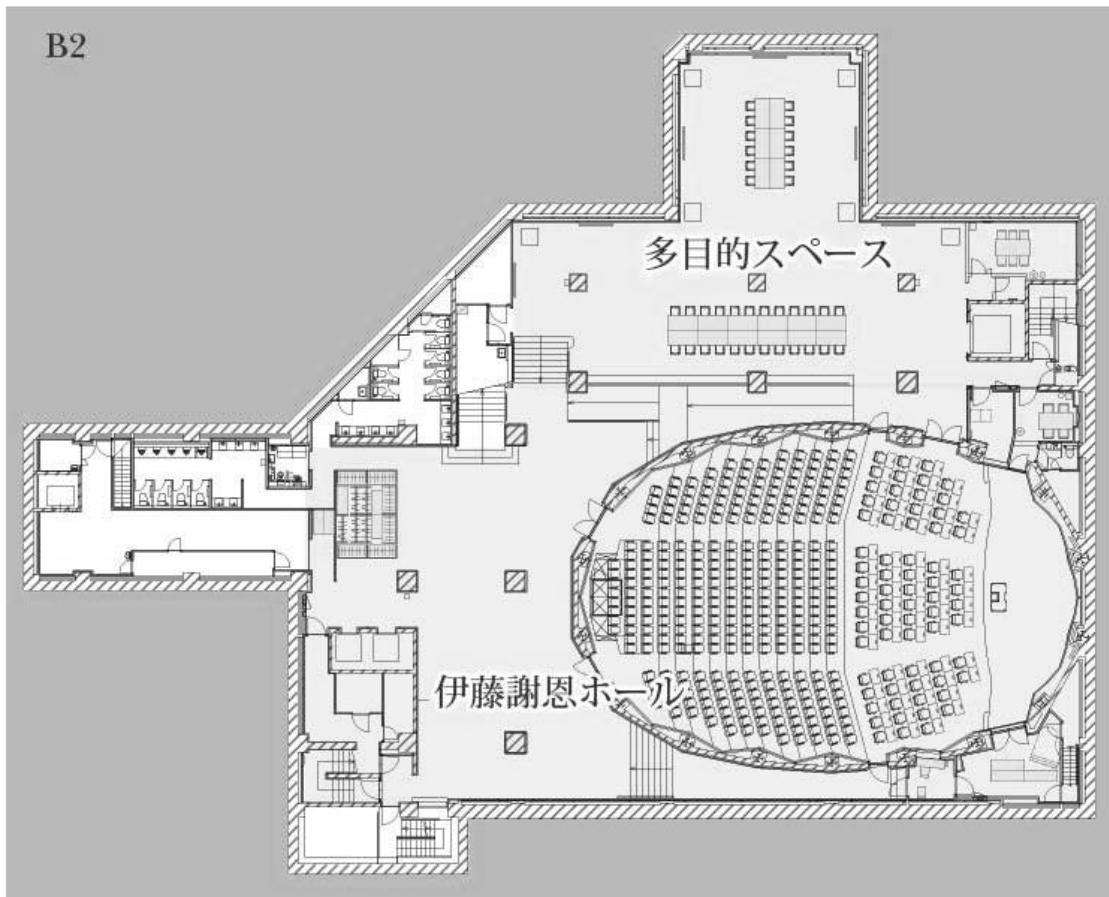
車でのアクセスについて

専用の駐車場はありません。お車のご来場はお断りしています。

入口



会場



協賛企業一覧

旭化成メディカル株式会社

協和キリン株式会社

バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社

アボットジャパン株式会社

富士レビオ株式会社

オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社

株式会社カイノス

一般社団法人 日本血液製剤機構